

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《1》

JR三江線(江津市―広島県三次市)が十六日、昨夏の豪雨災害以来、約十一月ぶりに全面復旧する。地域の人口減少などを背景に利用客の低迷が続くが、並行する江の川の悠々たる流れと、急峻(きゆうしゅん)な山並みが織りなす四季折々の表情をはじめ、車窓からの眺めは魅力に富む。沿線も、味わい深い風情を秘める。そんな数々の「財産」を、NPO法人・結まるプラス理事長のかわべまゆみさん(49)と、邑智郡広域振興財団職員の高橋由美さん(41)に紹介してもらう。

広島県三次市から、日 という恩恵を受けている。本海側の江津市を結ぶJ R三江線は、中国一の大 ところで、川の幸とい 河である江の川に沿って えば、アユなどの魚介を 走っている。 想像してしまうが、時に

わたしは、この江の川 暴れ川となるこの川は、 流域の桜江(江津市) 大雨とともに、上流から という町に、八年前から ミネラル分が豊富な肥沃 暮らしているが、ありが (ひよく)な土を周辺の たいことに、その四季折 畑にもたらし、質の良い 々の美しい姿に癒やさ 農産物も生み、はぐくん れ、励まされ、また、豊 でくれる。 かな川の幸をいただく その一つが桑である。



もともと、養蚕が盛んだ ったこの地には、桑畑が

桑の実摘み体験

おいしさは感動もの



濃い紫に色づき始めた桑の実を収穫する桜江町桑茶生産組合の人たち

置き去りとなった。 という、全国的にも注目 しかし、十年ほど前に される企業となってい 福岡から移住された古野 さんご夫妻が、桑の葉の 五月末から六月初めに 健康成分に着目し、桑茶 かけ、この桑の木には、 を開発。荒れ果てた桑畑 愛らしい桑の実がたわわ を見事再生し、現在は に実る。マルベリーと呼 ばれる濃い紫色の実は、 多くあったが、養蚕業の 衰退とともに、そのまま 濃厚な甘さと、さっぱり とした酸味が特徴だが、 糖度が高く、すぐに熟し て落ちてしまったり、鳥 が食べてしまったりする ため、収穫期間は二週間 ほどと短い。 同組合は、この桑の実 を多くの人に食べてもら おうと、毎年「桑の実摘 み体験」を企画しており、 わたしも、そこで初めて 頂いた。そのおいしさに 感動し、毎年、初夏の到 来を心ひそかに楽しみに している。 緑も鮮やかな桑の木陰 の柔らかな日差しの中、 江の川からのさわやかな 風に吹かれ、摘みたての 実をほおばることができ る贅沢(ぜいたく)なひと とき。 もちろん、その場で食 べるだけでなく、持ち帰 り、果実酒やジュース、 ジャムなどを作る人も多 いそうだ。 今年も六月一日から三 日まで、この桑の実摘み が体験できる(原則、予 約制)。問い合わせは、 同組合(電話08555・ 922・0547)。

(かわべまゆみ、江津市 桜江町在住) 隔週土曜日掲載